

岡崎市における有機農業産地づくりについて

～ 「オーガニックシティおかざき」について ～

西三河農林水産事務所

岡崎市は、北から南に矢作川、東から西に乙川が流れ、また、その水源として市域の約6割にのぼる森林を有し、豊かな水源と自然環境に恵まれた地にあります。

これまで、その豊かな自然環境を活かして安全・安心な農産物が供給されてきましたが、昨今の気候変動等による環境問題、燃油や肥料の価格高騰に加え、特に中山間地域の担い手不足による耕作放棄地の増加など様々な問題が顕在化してきました。

このような中、農の持つ自然循環機能を活かし、食・環境・産業の好循環の実現を目指して、未利用の有機質資材の有効活用や化学肥料・農薬に依存しない有機農業の産地づくりに取り組んでいます。

1 オーガニックビレッジ宣言（オーガニックシティおかざき）

オーガニックビレッジとは、有機農業の生産から消費まで一貫し、農業者のみならず事業者や地域内外の住民を巻き込んだ地域ぐるみの取組を進める市町村のことをいい、全国で94市町村（県内4市町）がオーガニックビレッジ宣言をしています（令和6年11月時点）。

岡崎市では、有機農業の推進に向けた具体的な目標や方針を定めた「岡崎市有機農業実施計画～オーガニックシティおかざきプラン～」を策定し、令和6年3月にオーガニックビレッジ宣言を行いました。



オーガニックビレッジ宣言 (R6.3.26)

2 取組内容

生産（技術指導、竹パウダーによる土壌改良、有機質ペレットたい肥の試作、ドローンによる追肥実証、アイガモロボによる抑草実証等）から流通・加工・消費（販路開拓支援、学校給食への提供等）まで循環する持続可能な産地づくりの実現に向けた取組を行っています。

また、有機農業の担い手確保と社会的意義や魅力等が学べる場を創出することを目的として、令和6年9月に「おかざき有機農業塾」を開講しました。



有機農業技術指導



アイガモロボット実証



生産農家と児童との交流



「おかざき有機農業塾」開講

3 今後の展望

有機農業塾や市民農園の開設による人材育成及び消費者の有機農業産地づくりへの理解をさらに深め、販路や流通経路等の調整、有機給食の継続に取り組み、計画の最終年度となる令和10年度には有機農業面積100haを目指します。